

イノベーションマネジメント

1. 講師

立本博文（筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授）

2. 研修テーマの狙い

新しいタイプの経営戦略のコンセプト（ビジネス・エコシステム、オープン&クローズ戦略など）について学びます。とくにビジネスモデル構築の重要性と、そのための知財マネジメント活用、標準化の利用方法などについて学びます。

3. 到達目標

いわゆる古典的な製品戦略（良い製品をつくれれば売れる）にとどまらない、戦略構築の視点を複数学びます

4. 受講対象者

- ・ 企業内（特に大企業）の本社の経営企画部署、事業部内の事業企画グループのスタッフ
- ・ 企業内（特に大企業）の知財グループ、知財センターなど知財部署で戦略立案にかかわるスタッフ

5. 教材一覧

No.	類型	タイトル・副題	企業	狙い・特徴
6-1	長編教材	(平成 29 年度以降に利用を予定)	-	-
6-2	短編教材	事業ドメインと知財の関係	総説 (解説)	外部の競争環境の変化を踏まえた事業ドメインの策定、また、事業ドメインと知財ポートフォリオとの関係性・連動について学ぶ。端的には、「事業企画はどのようなことを知財部と相談するべきか」「知財部はイノベーションのどの時点から関わるべきか？」などについての論点整理。
6-3	短編教材	オープン・イノベーションの 10 年間	総説 (解説)	オープンイノベーション・コンセプトとは、自前による研究開発に拘らず、社内外の未活用の知的資産を積極的に活用すること。しかし、オープン・イノベーションは時代や言っている人によって、言っている内容が異なるという問題がある。これらの混乱点を整理して紹介する。さらに、オープン・イノベーションは、「知財マネジメントに支えられたビジネスモデル」が必須であるというメッセージも強調して紹介しながら、研修テーマ No. 7 への導入を行う。
6-4	短編教材	(平成 29 年度以降に利用を予定)	-	-
6-5	短編教材	(掲載許諾が確認でき次第、随時公表してまいります。)	-	-
6-6	短編教材	(掲載許諾が確認でき次第、随時公表してまいります。)	-	-
6-7	短編教材	(掲載許諾が確認でき次第、随時公表してまいります。)	-	-
6-8	短編教材	(掲載許諾が確認でき次第、随時公表してまいります。)	-	-
6-9	短編教材	日本企業のプラットフォーム戦略の課題	総説 (解説)	産業全体を成長させるようなプラットフォーム戦略は、今後、ビジネスエコシステム型の産業構造では必須であると考えられる。しかし日本企業ではプラットフォーム戦略をとることが難しいといわれる。この短編では、日本企業がプラットフォーム戦略をとることが難しい理由と、それを乗り越えるためのヒントを紹介する。
6-10	参考資料①	ビジネス・エコシステム (研修テーマ「グローバル経営戦略」の短編 No. 1-3)	用語解説	ビジネス・エコシステムという「産業構造」の特徴について説明する。
6-11	参考資料②	プラットフォーム・ビジネス (研修テーマ「グローバル経営戦略」の短編 No. 1-4)	用語解説	ビジネス・エコシステムの中で産業進化を主導するプラットフォーム企業について、どのように理解すれば良いのかを紹介する。
6-12	参考資料③	GSM携帯電話①標準化プロセスと産業競争力 下記URLからダウンロード	解説	GSM 携帯電話業界 (企業) における標準化プロセスと産業競争力について説明する。

No.	類型	タイトル・副題	企業	狙い・特徴
		http://merc.e.u- tokyo.ac.jp/mmrc/dp/pdf/MMRC19 1_2008.pdf		
6-13	参考資料④	GSM携帯電話②特許問題 下記URLからダウンロード http://merc.e.u- tokyo.ac.jp/mmrc/dp/pdf/MMRC19 7_2008.pdf	解説	GSM 携帯電話業界（企業）における特許問題 について説明する。
	自己学習用教材（電子コンテンツ）			

6. 参考文献

全体を通じての参考文献は指定なし。

各教材に関する参考文献は、各教材の巻末に記載。

（次頁に続く）

7. 研修の進行

以下の進行例は、2日間の研修を開催する場合のコマ毎のテーマ、利用するケース教材、授業形式、事前課題・事後課題等を例示したものです。

(1) 1日目 (18:20~21:00 (2時間40分))

①事前課題

- ・ 自己学習用教材（電子コンテンツ）を視聴してください。
- ・ 1日目の授業で取り上げる短編 No.2, No.3, No.4, No.5 は事前に読んでおいてください。また今回参考資料として配布します参考資料①No.10, ②No.11 についても同様に事前に読んでおいてください。利用教材を読んでいることを前提として研修を行います。
- ・ なお短編 04 についてはケース教材となっており、設問が 4 問出題されています。自分の考えをレポートにまとめてください。レポートの提出は不要です。これに加え参考資料③No.12, ④No.13 についても事前に読んでおいてください。

②当日進行

No.	テーマ	利用教材	実施形式	所要時間	講師
1	俯瞰的な戦略構築の重要性を説明する。また、どういう意味で「オープン」が重要なのかを紹介する。	短編教材 No.3、短編 No.5、参考資料①「ビジネス・エコシステム」、参考資料②「プラットフォーム・ビジネス」	講義	15分	立本
2	オープンの中で、特許がどうして重要なのかを説明する。また、1980年代以降、先進国企業での特許の使い方が変化してきたことを紹介する。	短編教材 No.2「事業ドメインと知財の関係」	講義	15分	立本
3	エコシステムの形成で企業のビジネスモデルや競争力がどのように変化するのかを考える。	短編教材 No.4、参考資料③「GSM 携帯電話①標準化プロセスと産業競争力」、参考資料④「GSM 携帯電話②特許問題」	グループワーク 1 グループ=4-5人。1 グループ発表(設問1問)につき10分弱。3問設問だと、30分/グループ。4 グループを想定すると、 $30 \times 4 = 120$ 分と	120分	立本

			なるが、上記は、 2 グループ程度の 発表+全体討議の シナリオも想定。		
				合計 150 分	

③事後課題

なし

(2) 2日目 (18:20~21:00 (2時間40分))

①事前課題

- ・2日目の授業で取り上げる下記の利用教材を読んできて下さい。利用教材を読んでいることを前提として研修を行います。また短編 06 も事前に読んできてください。
- ・長編教材 1「i モードの欧州展開」について、事前によみ、添付の設問について自分の考えをレポートにまとめ、持参してください。

②当日進行

No.	テーマ	利用教材	実施形式	所要時間	講師
1	前回講義の復習		講義	30分	立本
2	日本でつくったビジネスモデルを海外に持って行ったときに、不適合を起こした。そのときにどうするのか、を考える。	長編教材 No.1 短編 No.6	1 グループ=4-5人。1 グループ発表(設問1問)につき、10分弱つかうので、3問設問だと、30分/グループ。4グループを想定すると、30×4=120分となるが、上記は、2グループ程度の発表+全体討議のシナリオも想定。	120分	立本
				合計 150 分	

③事後課題

事後アンケートに、本研修を通じて得た「学び・気づき」、「企業実務に活かしたい点」等をまとめ、提出してください。